

令和2年度 事業報告書

学校法人 福寿会
福島医療専門学校

〒963-8026 福島県郡山市並木三丁目2番地の23
TEL 024-933-0808 / FAX 024-933-7887
URL <http://www.f-iryo.ac.jp> / E-mail koho@f-iryo.ac.jp

1. 法人の概要

■法人名 学校法人福寿会 / ■理事長 岸野 政子

■学校名 福島医療専門学校 / ■学校長 飯島 正治

■所在地

本部・柔整科校舎

〒9363-8026 福島県郡山市並木三丁目2番地23号

TEL 024-933-0808 / FAX (代表) 024-933-7887

鍼灸科校舎

〒963-8026 福島県郡山市並木三丁目3番地21号

TEL 024-927-8803 / FAX 024-927-8803

歯科衛生士科校舎

〒963-8026 福島県郡山市並木三丁目3番地23号

TEL 024-927-1248 / FAX 024-927-1252

第4校舎・福寿リハビリ介護ステーション

〒963-8026 福島県郡山市並木三丁目3番地の26

TEL 024-954-7884 / FAX 024-954-7885

附属接骨院

〒963-8026 福島県郡山市並木三丁目2番地23号

TEL 024-991-6385 / FAX 024-933-7887

附属第二接骨院

〒963-8035 福島県郡山市希望ヶ丘5番地2

TEL 024-962-9110 / FAX 024-962-9112

附属鍼灸治療院

〒963-8026 福島県郡山市並木三丁目3番地の26

TEL 024-954-7884 / FAX 024-954-7885

附属なみきッズ保育園

〒963-8026 福島県郡山市並木一丁目13-11

TEL 024-973-6470 / FAX 024-973-6471

■設置する学部・学科の一覧

課 程 名	学 科 名	部 別	修業年限
医療専門課程	柔 整 科	1 部	3 年
医療専門課程	柔 整 科	2 部	3 年
医療専門課程	鍼 灸 科	1 部	3 年
医療専門課程	歯科衛生士科	1 部	3 年
医療専門課程	歯科衛生士科	2 部	3 年
文化・教養専門課程	日本語学科	進学 2 年コース	2 年
文化・教養専門課程	日本語学科	進学 1.5 年コース	1.5 年

■学生数の状況

柔 整 科	学年	部	男性	女性	計
	1年	1部A	23	9	32
		1部B	20	11	31
	2年	1部A	16	11	27
		1部B	18	9	27
		2部	10	2	12
	3年	1部A	16	8	24
1部B		19	7	26	
合 計			122	57	179

鍼 灸 科	学年	部	男性	女性	計
	1年	1部	20	12	32
	2年	1部	11	13	24
	3年	1部	6	4	10
	合 計			37	29

歯 科 衛 生 士 科	学年	部	男性	女性	計
	1年	1部	2	38	40
		2部	0	27	27
	2年	1部	0	39	39
		2部	0	28	28
	3年	1部	1	32	33
		2部	0	15	15
合 計			3	179	182

日 本 語 学 科	1年	入学時期	男性	女性	計
	1年	4月生	8	7	15
		10月生	5	4	9
	2年	4月生	1	3	4
		10月生	4	3	7
合 計			18	17	35

柔整科・鍼灸科・歯科衛生士科は2020年5月1日時点の数
日本語学科のみ10月生を含む1月時点の数で表す

■役員・教職員の概要

学校法人福寿会 役員一覧

役 職	氏 名	役 職
理事長	キシノ マサコ 岸野 政子	学校法人 平成医療学園 常務理事
理 事	キシノ マサミ 岸野 雅方	学校法人 平成医療学園 理事長
		学校法人 札幌青葉学園 理事長
		全国柔整鍼灸協同組合 理事長
理 事	モミヤマ テツオ 樺山 哲男	株式会社 テックス 代表取締役社長
理 事	フクシマ ヨシユキ 福島 佳之	株式会社福島会計センター 代表取締役社長・税理士
理 事	ツチエ ナオイチ 土江 直一	元：全国柔整鍼灸協同組合 理事・事務局長
理 事	イイジマ マサハル 飯島 正治	学校法人 福寿会 福島医療専門学校 校 長
理 事	キノ タツジ 木野 達司	学校法人 福寿会 福島医療専門学校 副校長
監 事	ヨシダ アキヨ 吉田 明代	学校法人 平成医療学園 監 事
監 事	イトウ タカノリ 伊藤 栄紀	伊藤総合事務所 司法書士

以上 9 名

■教職員の概要

職名	男性	女性	計
理事長		1	1
校長	1		1
副校長	1		1
教務部 専任教員	16	14	30
教務部 兼任教員	24	4	28
教務部 教員助手	1	1	2
カウンセラー		1	1
教務部 職員	2	3	5
附属治療院	1	4	5
福寿リハビリ介護ステーション	2	3	5
事務局長	1		1
事務局職員	3	5	8
なみきッズ保育園	0	19	19
合 計	52	55	107

2. 事業報告

■令和2年度における主な事業の報告

1) 教育活動の質の向上（国家試験対策および ICT 教育の充実）

本校は職業学校である性質上、専門的な知識と技術の修得ならびにその先にある国家資格取得を目標として掲げている。今年度は平成30年に新カリキュラムを導入後、初の卒業生を輩出する年度であった。変化した国家試験の出題基準に対応すべく、各科で実施した主な対策は以下のとおりである。

- ・ 学生に寄り添った指導および個別面談の徹底
- ・ 模擬試験の活用
- ・ Forms を利用した練習問題の作成と提供

このように3科とも学生の側に立った指導を心がけ、学科長を中心に科全体が一丸となって取り組んだ。模擬試験も一部例年より回数が減ってしまった学科もあったが、マークシート用紙を模擬試験以外の問題演習にも活用し、分析の強化を図ることができた。Forms も徐々に各科へ浸透し、Onedrive や Teams と連動させて、学外でも多くの教育資料や問題を提供できたことは学生にとって大きな支えになったと考えられる。結果として、国家試験合格率は柔整科 91.2%、鍼灸科 88.9%、歯科衛生士科 95.6%というそれぞれ全国平均以上の成果を収めることができた。

また、令和2年度は様々な場面で新型コロナウイルス感染症の影響が大きい1年であった。4月には緊急事態宣言が発出され、対面授業を停止し授業を全てオンライン・オンデマンド形式に移行させた。当初不慣れな面があったことは否めないが、オンライン授業の長所・短所をこの時期に見定めることができたため、以降の授業に生かすことができたと思えている。多くの学生が Onedrive や Teams を積極的に利用し、ICT 教育の活性化に繋がったことも成果の1つであると言える。これ以降、体調不良で登校できない学生も自宅に対面授業と同等の教育を受けることができるようになったことは、感染症対策と教育を受ける機会の確保の2つの点で非常に効果的であった。

さらに国家試験直前にも県内で新型コロナウイルス感染者の拡大が見られたため、3学科3年生は試験前の約1か月間を自宅学習へ切り替え、登下校による感染リスクを抑えながら全員が国家試験を受験できるような取り組みを実施した。この頃は教職員も学生もオンラインで授業をする仕組みが確立できていたため、平時と同等の教育を提供することができ、前述の国家試験の結果に結びついたと考える。

令和2年度は ICT 教育に関する設備の拡充も行った。本部・柔整科校舎では職員室を含む LAN 工事に着手し、ネットワークの安定化と高速化を図ることができた。授業配信用の最新端末も各科に導入し、ZOOM を用いたリアルタイムでのオンライン授業に活用している。また各校舎の教室では学生が使用するネットワーク“S-net”の不安定さを解消するため、高速回線用のルーターを導入し改善を図った。

2) 新規事業の安定化

本校では新規事業として平成30年度には「なみきッズ保育園の開園」を、翌令和元年には「日本語学科の開設」を達成している。令和2年4月より、なみきッズ保育園は社会福祉法人山の子会への運営委託を解消し、本校の独自運営へと切り替えた。園長、主任保育士を配置した新しい体制づくりを実践し、園児の増加に伴い新たに増員した教職員へも指導が行き届くような組織運営を行った。並行して、園児数の定員充足に向けた対策も強化し、提携企業の拡大を目的とした近隣事業所への訪問活動、既存提携企業との情報共有、自治体との細部にわたる情報交換を行うことで、令和3年2月期にはほぼ定員を充足させることができた。3月期に転園、卒園の園児が出てしまうことは避けられないため、4月以降再度定員を充足させる取り組みを行い、早い段階で41名の定員に近づけることが課題である。また令和2年度は顧客満足度の向上に努め、子どもや保護者が安心して通園できるよう、全ての保護者へアンケートを実施し、利用者の声を保育園運営に反映させられるよう職員全員で向き合った。今後も新型コロナウイルス感染症を始めとする様々な保護者の不安や不満には丁寧に対応していく。

一方、日本語学科においては、他科と同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初予定していた4月生の入国時期がずれ込み、11月来日、2週間の自主待機期間を経て12月に郡山へ到着した。10月生も同様に12月来日、2週間の待機期間を経て、実際に対面で授業ができるようになったのは1月からであった。1月を以って予定していた24名の入学が完了し、2020年度は1年生24名、2年生11名の計35名が日本語学科の学生数となっている。留学生自体はベトナムを中心に多くの希望者が出ており、各国の送り出し機関からも本校が認知され、募集は順調に推移していると言える。しかしながら、まだこの頃は新型コロナウイルスの影響が出ていながらも感染者の少ない国々と日本は行き来できたが、現時点ではそれも不可能となっており今後の募集活動への影響が懸念される。今後は直接の訪問が困難であるため、インターネットを介した通信手段でネパールやミャンマーといった今まで着手していない諸外国へ積極的な募集活動を行い、留学生の出身国を限定することなく受入れを推し進めたいと考えている。